

第30期社会教育委員の会議

第9回定例会

令和5年9月29日

【1】開催日時

令和5年9月29日（金）18時30分～20時30分

【2】開催場所

教育会館3階 研修室「ぎんが」

【3】出席委員

井上委員（議長）、堀井委員（副議長）、峰岸委員、奥平委員、豊田委員、村上委員、
村内委員、佐藤委員、山崎委員

【4】出席職員

教育委員会事務局

渡邊生涯学習課長、佐々木社会教育係長、御園生社会教育担当係長、社会教育係主任

【5】傍聴人

10名

【6】次第

1 第8回議事録の承認

2 議事

（1）実践的連携・協働活動の報告Ⅰ

（2）質疑応答

3 意見交換

（1）次回報告予定の進捗状況について

○校内居場所カフェ

○おやじの会

○総合型地域スポーツ文化クラブ

（2）全体での意見交換

4 その他

（1）今後のスケジュールについて

午後6時29分開議

○議長 ただいまから第30期社会教育委員の会議第9回定例会を開催いたします。

開催に先立ちまして、本日、新海委員が都合により御欠席という御連絡をいただいておりますので報告いたします。

それでは、早速ですが、議事日程に従い進めてまいります。

まず、第8回議事録案の承認でございます。事務局より事前に連絡がありましたので、委員の皆様には御確認いただいておりますが、改めて訂正等がありましたら、この場で話しいただき、皆さんと確認していきたいと思いますが、いかがでしょうか。

特に問題がないようでしたら御承認をお願いいたします。

それでは、この会議終了後、村内委員と佐藤委員に署名をしていただきますようお願いいたします。あわせて、今回の議事録の署名については村上委員と山崎委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、修正の有無にかかわらず、後日事務局より完成版を配付されるということであり
ます。

では、議事に移ります。

前回の定例会から、この間、連携・協働活動の試行を行っていただきました。今回と次回は、その結果を含めて御報告いただくことになっております。また、この報告会は、委員の皆様の関係者にもお集まりいただきまして、今後の活動の参考にさせていただくという
願いを込めて、公開の報告会としたいと思っております。これは前回お諮りいたしましたとおり
です。今回は、委員の所属する団体から10名の方が報告を聞きにいらっしゃるようですが、
特に問題ないようであれば、その方たちに報告を聞いていただきたいと思います。拍手
をもって承認いただければ願います。

〔 拍 手 〕

○議長 ありがとうございます。それでは、関係者の皆様に御入室いただきたいと思います。
ます。

お忙しい中、報告会に来ていただきましてありがとうございます。多分事前に御案内があ
ったかと思いますが、いわゆる次第における議事の部分を報告会という形にして
おりますので、その部分に御参加いただくということでございます。また、御参加に当た
りましては、形式張っておりますけれども、録音、録画、写真撮影等は御遠慮いただきたい
ということでございます。また、報告会の終了後、御退室いただきますので、その旨も御

了解いただきたいと思います。

では、今回は委員の報告でございます。委員、よろしくお願いいたします。

○委員　こんばんは。これから報告をさせていただきます。よろしくお願いします。

私は、事例1、2、3の3つの事例として報告させていただきます。

まず1つは、青少年船橋地区委員会の環境整備部会、ここは地域の高校3校との連携、毎年中学校の授業時間に行っている中学生研修のこと、2例目は子どもぶんか村の取組、そして3例目としては、NPO法人ぶんか村PLACEの無料学習塾・学習支援の3つに分けてパワーポイントを使ってお話しします。

最初に、御存じとは思いますが、地区委員会のことから説明させていただきます。地区委員会はまちづくりセンターの区域を単位として組織されています。現在世田谷区には28地区あるので、地区ごとに設置されている委員会を地区委員会と言っています。青少年を取り巻く社会環境の整備や地域社会における青少年の健全育成を図る実践組織として、各総合支所地域振興課の所管で、各まちづくりセンターが事務局となっている組織です。運営は、町会・自治会代表、学校長、青少年委員、スポーツ推進委員、保護司、民生・児童委員、PTA代表などから組織され、地域の実情に即した具体的な活動を行っているところです。

私たち船橋地区委員会の構成を御覧ください。年に2回の総会があり、毎月1回から2回の理事会をしています。事業は、子どもを取り巻く環境や研修を図る総務部と実践としての子どもぶんか村事業部の2つがあります。私たちはこれを理論と実践の両輪と呼んでいます。ここから、今回のテーマである学校との連携・協働となる事例を挙げると、総務部環境整備部、研修部の中学生研修となります。

総務部環境整備部では、定例会として毎月各小学校のPTAの代表の方と6つの町会の方々により活動を報告し合っています。学校と地域の様子を理解するようにそこで努めています。年に1回、管内の高校3校と連携事業をしています。年に1度行う情報交換会は、都立千歳丘高校、私立大東学園高校、私立恵泉女学園高校の生徒と先生、そして、管内の小中学校の校長先生やPTAの方々、町会・自治会の方々にお集まりいただいて、テーマによって情報を交換し合っています。

これまで情報交換会で行ってきた一覧、このようなことになっています。平成16年から続けています。これまでは進路指導の先生だったりとか、生活指導の先生だったりとかの大人の集まりだったんですけども、平成21年からは3校の高校生が5～6人ずつ来てく

れて、地域の方とみんなでお話ができる会にしました。でも、コロナがあったので、高校もなかなかそういうことができなく、ここ3年はやっていないという現実があります。

次にお話しするのは中学生研修会です。これは地元の中学校、昔は希望丘中学校と船橋中学校と2校あったので、午前中は船橋中学校、午後は希望丘中学校と2校とも同じ日だったり、違う日だったりしながら2校に分けて、同じ講師の先生が同じお話をしました。でも、それが10年前に一緒になったので、1回で済むようになっていきます。5、6時間目の授業時間の中でやらせていただけるので、私たちも学校との信頼関係をちゃんとしなくてはいけないという緊張感を持ちながら、テーマとかも決めています。

2020年のオリパラの研修会のときは、学校にもオリパラの予算がついたと言われて、じゃ、もうちょっと何かできることがないかなと考えたときに、学校の割当てで応援する国が中学校に決められているので、アメリカ、イスラエル、イラク、オーストラリア、カナダ、ケニア、ドミニカの人たち全員を何とかして集めてパネリストになっていただき、中学生もパネリストになって、校長先生にも入っていただきながら研修会をしました。通訳も入っているんですけども、英語で一生懸命中学生が聞こうとしている姿もとてもすばらしかったし、いい研修になったなと思っていました。そうしたら、東大で発表しなさいと言われて、このことについて東京大学の「開かれた学校づくり」フォーラムみたいところで発表させていただいた経験があります。

これが中学生研修のリストです。下までずっと続いているんですけども、今は上のほうだけしか見られなくて、すみません。

次に、ぶんか村のことをお話しします。そもそも子どもぶんか村は、平成14年度完全学校週5日制の実施に伴って、希望丘中学校、船橋中学校の2人の校長先生から、こういう文化的な取組をしたらどうですかという提案があって始まりました。子どもたちの土日の部活動だけではない活動の機会の保障、自然体験や社会体験をさせてほしい。そのときは、部活動の課題として文化部の衰退があったので、文化部をぜひつくってもらいたい。「連携の教育」＝地域などの連携をしたい。最大の課題としては、お休みの土曜日をどうするという「受け皿づくり」ということで始まりました。それを受けた地区委員会では、本当に私たちにできるのかどうかというところで、先生から、いやいや、もう東深沢では既にやっているんだよというお話を伺って、東深沢スポーツ文化クラブに勉強に行かせていただきました。そのときも本当に驚いたというか、深沢コミュニティーの持つ層の厚さがあっ

て、こういう取組ができたんだなということを、教えていただいたときに、私たちはそこまでできる自信はないけれども、少しずつ、小さく小さく、できることから始めようと思ってぶんか村をつくっていきました。

このことを私たちはとても大事にしています。「自分のことが好きになって 仲間のことが好きになって 住んでいるまちが好きになって 子ども同士、おとな同士 子どもとおとながつながっていく 私たちはそんなまちづくりを目指しています」。地域が運営する小学生・中学生・高校生のための文化的クラブ活動が発足しました。

ぶんか村については動画を作っておりますので御覧ください。

〔 動画視聴 〕

後でもう一本、動画がありますけれども、ここからはパワーポイントはないんですけれども、お話しさせていただきます。

このように地域の方々から認められて、学校との良好な関係の中でぶんか村は成長していききましたけれども、4年前のコロナで私たちは本当に戸惑い、存続が危ぶまれ、難しくなるというか、マスクをしていたところも今御覧いただけたと思いますけれども、委員たちの間でもこんなことをするべきではないのではないかという声とか、ボランティアでやっているのに、ここまでする必要があるのか、コロナが収まるまでは休止にするべきだとか、万が一、クラスターでも起こしたら誰が責任を取るんだとか、理事の中でもそういう厳しいお話し合いがありました。それは、純粋に、率直にみんながそういう話をしてくれてよかったなと思いました。

子どもの数も、リモートで最初の入会したときの半減となりましたし、このままやっていくのは本当に難しいなというのも感じていました。でも、話し合いを重ねるごとに、できる人が、できるときにちゃんとしていこう。動いている人たちを批判するのではなくて、引きずり降ろしてやめさせるのではなくて、現場に関わらなくても、下支えする役にはなれるし、そうやって続けていこうというふうにみんなの気持ちが一致したというところは本当によかったなと思いました。こんなときだからこそ、私たちができることがあるのではないかというふうに話が発展して、子どもとつないだ手を離さないという気持ちを一人一人みんなが持って、できることをするというふうにたどり着いたというか、そのときも非常に大変でしたけれども、話し合いを丁寧に重ねて行ってよかったな、絆ができたと思います。

3密を避けた新しい生活様式と盛んに言われて、こんなにコロナが長く続くとも思わなかったし、そのうち大丈夫になるのではないかと思いながらも、1年、2年、3年とどんどん続いていって、そのうち子どもたちの中にも、家庭の環境が変わっていくお子さんたちがいることに私たちも気づき始めたんですね。ニュースや新聞で報道されている世界のことではなくて、身近なところで起きていることに気づきました。心配になって私たちは、支援を必要としている子どもに出会うチャンスを何とかしてつくりたいねって。それで、おやつステーションをつくりました。食支援はとても敷居が高いし、そんなことをしたら、誰に何を言われるか、分からないし、難しいでしょう。でも、おやつを配るだけだったら、ちょっとの出会いなので可能かもねって。30秒の出会いなんですけれども、おやつステーションを開催しました。

おやつステーションは週に2回、3時半から5時15分まで、旧世田谷福祉専門学校をお借りして行っています。2021年の11月から始めたので、今度の11月で2年となります。毎回10人を超す子どもや親御さんたちでにぎわっています。おやつステーションが始まって、おやつステーションに来る子どもたちの中から無料学習塾学習支援 premi が始まりしました。そこに行くまでに、私たちの支援を必要としている子どもたちのためにNPOをつくったほうがいいのではないかなって、子どもぶんか村から発展して、同じ理事たちの中の有志でNPOをつくりました。その動画も新しく制作したので御覧ください。

〔 動画視聴 〕

今見ていただきましたとおり、学習支援を始めましたところ、すごく大変な子どもたちがいて、学校ではどうしているんだろう、学校の担任の先生はどう考えているのかとか、学校の先生にお話を伺いたいと私たちは思いました。そうはいっても、学校はすごく敷居が高いし、秘密にしないでほしいことがたくさんあって、よそよそしいような態度だったりとかするから難しいかなと思っていたところ、この会議の委員から、いや、私だったらうれしい、そういう情報が入ってくることはとても大事なことだし、それを聞いたら先生たちだっていいと思うと言ってくださったから、本当にそうかなと思って、校長先生にお話ししたいんですけれどもと言ったら、どうぞどうぞと言ってくださって、私たち premi のメンバー3～4人、向こうも担任の先生、学年主任の先生、支援学級の先生、もうみんなそろってくださって、何々君のために、こうです、こうですという話をするのができたんですね。これは本当に画期的だなと。私たちが知らなかったことを担任の先生か

ら教わり、担任の先生も、ああ、そうだったんですかと意外なこともお伝えできたりしながら、また続けていきたいねというふうになりました。

小学校の先生は新しく4月から来たばかりの先生だったんですけれども、お話ししたところ、どうぞと言ってくださって。でも、先生たちはお忙しくて、夏休みなら時間が取れますとおっしゃってくださったので、夏休みに5人の先生と面接することができました。そのようにして、学校とこんなふうにつながれるんだなというのがとてもうれしかったし、私は長く伺っているので、以前の学校と変わってきているんだなとも感じました。そんなことを学校が許すはずがないというようなことがちょっと多い感じだったけれども、どうぞと言ってくださった担任の先生たちも本当に真摯に受け取ってくださって、この子は1対1で見れば理解できない子ではないんです。でも、私にはそんな時間がないものだから、プレミで見えていただけるならうれしいって。伺ったときに、私たちにもやれることがあるなと感じました。

これから連携・協働を進めていくというところで1つ課題となっているところ、情報の共有というツールが細過ぎるなと感じています。例えば先生と面接したいと思ったときに、アポイントを取るのが本当に大変で、電話なんかしても、先生につながるまで時間がかかるし、先生が教室にいらっしゃるのに下まで降りてきて電話に出るというのはちょっと気が引けて、いつ電話していいかも分からないし、校長室に伺っても校長先生はいらっしゃらないし、何度行っても会えないし、メールをしてもお返事が遅くて、学校は情報を交わすことが不便なところだなと感じています。もう少しオープンなコミュニケーションツールができればいいな。今できているすぐーるなどを利用しながら、オープンなものが欲しいなと感じています。

私たちはまだ不十分ではありますけれども、修正しながらこれからも子どもたちの最善の利益のために、子どもの味方であり続けます。それには、学校との連携は不可欠であり、今後も大切に育てていきたいと思っています。

これで発表を終わります。(拍手)

○議長 委員、ありがとうございました。

それでは、質疑応答に入ります。委員の皆様から御質問や御意見などありますでしょうか。

先に私から少し整理いたしますと、前半の話は子どもぶんか村、今までの経緯であるとか、どんな活動をしているかというお話であったと思います。最後のほうに出てきたのが

特に今回の報告会にかかわるところで、30期社会教育委員の会議では、昨年度からこのテーマに取り組んでいて、お話の中にもありましたけれども、実践的に連携・協働するためには、今回の場合は、団体と学校が実践的に連携・協働するためにはどんな活動といいですか、工夫があったらいいのだろうかというテーマで昨年1年、考えてきて、今年の夏ぐらの時期から実際にやってみましょうというふうに位置づけて、4つの団体にいろいろな活動をしていただいたということでもあります。その1つ目が今の御発表にあったところで、最後のほうのプレミで、かつ8月に初めて先生方とお話をしてみたというところが、その一番の中心に当たるところであるというふうに聞いていただければなと思っております。

それでは、委員の皆様から何かありますか。いかがでしょうか。

先ほど最後に、先生方と情報共有しようとしても、情報共有のツールが少ないというか、細いのではないかというお話がありましたけれども、いかがでしょうか。

○委員 細いというか、どうしてなのかなという理由を探る必要があるとは思いますが、最近になって学校も大分便利になってきて、パソコンが新しくなったりして、私は大分共有しやすくなっているんですが、返事が遅く、なかなか返ってこないという話は多分多忙ですね。1回見てはいても、返事を考えるのにというか、そんな簡単に「見ました」では返せないで、そういうことが重なっているのかなとは思いますが、そのうちだんだん効率よく見てくれるようになると思うので、そこで諦めないで、がっかりしないで、何度もアタックしてもらえばいいかなとは思っています。

○委員 担任の先生とどのようにしたらいいですかね。

○委員 担任の先生、例えばうちの学校だったら、ちょっと例は違うかもしれませんが、外部からゲストティーチャーをお招きするとなった場合には、もう直接やり取りをしてもらっています。直接やり取りをした経緯について管理職のほうで報告をもらって、大体こちらの考えている方向からずれていなければ、それで進めましょうというふうにしています。

○議長 私自身の経験からは、校長先生、副校長先生、メールを見て、返信していただきますけれども、校長先生の忙しさとかによって返ってくるスピードは違うかな、致し方ないかなという感じはいたします。ただ、個々の先生、学級担任の先生とやり取りすることはあまりないですね。直接メールでやり取りするということは、今のところ、私自身の経験ではないですね

○委員 もっとオープンに話せる場所があれば、個人の情報としてはもちろん秘密にしないではいけないということもある。例えば先生の資質とかに関わるような問題だったりとか、地域の人たちが入ることによって、よりよく変われる可能性はあるのではないかと私は思うんです。囲い込むのではなくて、開くことで先生たちが気づいたりとか、学んでいたりというところがあるのではないかなという気はしているんですけども。

○委員 目的とか、やっていることはとてもいいことなので、多分否定はしないと思うんですが、例えばSNSの使い方とか、そういう細かいことになってくると問題が出てくるということですよね。じゃ、何をどうすればいいかというと、やっぱり押しかけていく。

○委員 その時間が私たちにもないんです。仕事をしながらこういうことをするのはもうぎりぎりな感じでやっていて、先生たちがいるときに家にいない……。

○委員 だとしたら、今ある手段。例えば学校協議会とか、何らかの形で接触するところはゼロではないですよ。現実的にはそういうところを活用していくしかないかなということですよ。

先生と個人的なつながりをつくっていくのは、先生も忙しいし、とても難しいと思いますから、その辺をどうするかというのが課題かなと思います。これは多分共通した1つの課題かなと思います。

○議長 今のお話を聞くと、以前に比べたら開かれたものになりつつあるのではないかと思いますよね。いろいろな学校の事情の中で手をつけなければいけないと考えていらっしゃるものが先にあれば、多分まずそこをというふうな優先順位もあるのかなというふうには、校長先生たちと関わっていて感じます。ただ、今回の御報告の中では、実践的連携・協働に向けたアクションを起こしたところ、以前に比べて学校は、もっと大変かと思ったら、意外に先生方とも、どうぞどうぞというようにリアクションがあって、これは少しいけるなという手応えを得られたと。ただ、実際に連絡を取り合おうとすると、いろいろなツール、世の中一般で使われているものからすると、ちょっと学校は硬いとか、遅いなという印象を持たれたということでしょうね。

○委員 多分画期的な動きなので、そこに全体で追いつくのはまだまだだと思います。本当に他にないような画期的な取組だと私は見ていて思いました。

○議長 どの辺が画期的なんでしょうか。

○委員 もう全てではないですか。このように人がいっぱいいらっしゃるというのもそうでしょうし、オープンに開かれた場所があるというのもそうでしょうし、関心を持ってい

ただいているというのもそうだと思うので、そういう意味では画期的ではないですか。

○議長 画期的ということともう一つ、ぶんか村で長くされてきた歴史というか、言葉が適切かどうか分からないんですけども、信頼感みたいなものがあってこそ、 Premi につながったような気がしているんですが、いかがでしょうか。

○委員 そう思います。ただ、校長先生が新しくおいでになったので、そんなことは御存じないので、どうかなという心配はしたんですけども、全くそれはなかったです。

○副議長 先ほど言われたように、例えば情報共有とかであれば、世田谷区全ての小学校、中学校の学校運営委員会、いわゆるコミュニティスクールになっていますよね。小学校だと学校運営委員会の会議は大体月 1 回ぐらいはやっていますか。

○委員 やっています。

○副議長 やっていますよね。これだけ地域に根づいているので、メンバーで学校運営委員会の委員さんがどなたかいませんか。

○委員 います。

○副議長 だとすれば、その方に、スピーディーではないにしても、月 1 回程度、こういう感じですよというまとめたものをお渡しして、それを校長先生に渡してもらうとか、報告してもらうというのはありかなと思うんですよ。それで担任の先生にお伝えくださいと。月 1 回になってしまいますけれども、それが重なれば……。

○委員 校長先生にメールでお出しすることができれば、それもいいでしょうね。

○副議長 それでもいいと思いますよ。それで担任の先生にお伝えくださいとすれば、月 1 回にしても割と……。でも、月 1 回が、個人的に行けばだんだん月 2 回になるかもしれないし。でも、やはり個人的には難しいと思うので、最初はそういうコミュニティスクールとか、学校運営委員会を通じて報告して、担任の先生に伝えてもらうというのが今は一番現実的かなと思うんです。でも、それでも多分いらっしゃいますよね。

○委員 私もそうですし。

○副議長 それであれば学校に行く機会が……。

○委員 でも、そういうことに時間を割くことはあまりないですけども……。

○副議長 でも、そういうつながりがあれば、運営委員会のメンバーも、当然メールでやり取りしますよね。

○委員 NPO 法人になったのはいつでしたっけ。

○委員 去年です。

○委員 1年たちましたか。

○委員 たちました。7月だったかな。

○委員 NPO法人を取る前と取ってからとの違いは何ですか。メリット、デメリットあるのかな。メリットだけですか。

○委員 メリットも、デメリットもなく、やっていることは同じというか、 Premiが増えた分、私たちは忙しくなってしまったよね。それでお給料がもらえるかといったら、まだそんなお給料をもらえると、助成金が集まると、寄附金が集まるとかということではないので。ただ、幸いにも、場所を今ただで貸してくださっているののでできるんですけども、家賃を払えと言われたら、無理だよねといつも私たちは恐怖におびえています。

○委員 先ほどの話だと、NPO法人をやろうという動機は、やっぱり地域の中で認めてもらいたいとか、そういう意図は全然ないんですか。

○委員 もうこれ以上、まちづくりセンターの職員の人に迷惑をかけられないという思いです。それでなくても、もうぶんか村をやっているだけで、まちづくりセンターの人たちは仕事が10倍になっています。私たちは9クラブあるでしょう。クラブは大体1個ぐらいが普通なので、それが9個もあって、研修部だったり、環境整備部だったりがあると、もう職員の人たちがすごく大変なんですね。

○委員 とすると、まちセンにはあまり頼りたくないし……。

○委員 頼りたくないというか、これ以上迷惑をかけられない。

○委員 そういう意味では独立しようということですね。分かりました。

経済的なメリットはないですか。

○委員 ないですね。2年たたないと寄附ももらえないですし。寄附を集めることにあまり才能がないと申しますか、宣伝も上手でないし。

○委員 組織的には可能にはなつたと。

○委員 はい。100万円でも、200万円でも頂いていいんですけれども。

○委員 今のところ、まだ暗中模索……。

○委員 全然です。ただ、助成金は申請すれば多分もらえるんだと思います。地区委員会は駄目だけれども。でも、その資料がたくさんあって、しかも、複雑だし、申請書、報告書と考えると、これ以上は私たちの寝る時間がなくなる……。

○委員 事務的なデメリットがあるということですね。分かりました。ありがとうございます。

○委員 何の結論にもならないので言わなかったんですけれども、おやじの会的な発想で言うと、先生、一杯飲みに行こうよで終わる気がするなと思って。飲みに行かなくてもいいんですけれども、要するに一回腹を割ってお互いの思っていることを話すと、その後の情報連携だったり、話しやすさだったり、大分変わりますね。昔の社会はみんな飲みニケーションでやっていたところがあると思うんですけれども。

○委員 考えもつきませんでした。

○委員 おやじの会発想で言うと、そういう感じですね。

○副議長 コミュニティスクールも、学校運営委員会のメンバーで飲みに行くことはないですか。

○委員 ないです。いや、私だけ呼ばれていないのかしら。そんなことはないと思いますけれども。

○副議長 私は運営委員を10年間やっていたんですけれども、夏と冬に、地域の人と保護者のメンバーとで必ず飲んでいました。だから、委員ほどの人なんて、関係する学校みんなが多分知っていないとおかしいのではないかな。この活躍ぶりを見ていると。

○委員 活躍しているのは私ではないですから。

○副議長 だから、学校運営委員会をきっかけにどんどん発信していくというか、距離や関係を近くしていったほうがいいかなと思うんです。

○委員 もう一つ、おやじの会的発想で言うと、飲みというのは大分というか、結構大きいんですけれども、一緒に苦労すると仲よくなりますよね。先生は忙しいから、いろいろ時間的な制約はあるんでしょうけれども、例えば僕はオール世田谷でソフトボールの大会とかをやっていますけれども、先生がソフトボールメンバーとして出てくるとか。そうすると、一緒にチームの中で自然と仲よくなって、コミュニケーションを取りやすくなったとかするので。あとは、先生、今度おやじの会でこんなイベントをやるんだけれども、遊びに来てよと言って。時間外労働になってしまうんですけれども、そうやって一緒に苦労してイベントとかをやると、仲よくなる人が多いです。

○議長 以前の学校と変わってきているというお話もありましたけれども、学校の先生たちは忙しいと言われていますが、子どもたち1人1人に向かい合っていきたいという思いはある。でも、忙しさの中でできない。そういうときにああいう場所があって、子どもたち自身もいろいろな人とできると言っていましたよね。また、プレミの先生であっても、一人一人に関わる時間がもうちょっと欲しいと言っていらしたんですが、多分、プレ

ミミみたいな場所というか、ああいう関わり方ができると、学校の教員も仕事として共有しているんですけれども、子どもたち全てにゆっくり関わりたいと思っても関われないというときがあって、それ以外に地域の人。子どもにとってはそういう人も先生だと思うんですが、そういう方が関わるとか、おやつって楽しいですね。そこに行くともらえるというだけでも、自分の家とは違う人に出会って何か感じる。そのような新しい形の連携の試みみたいなものが少し出てきていて、全ての学校でできるわけではない、まだできていない。連絡のツールの話も出ましたが、そういう在り方の中からヒントが出てくるのではないかなと思いついて伺っていました。

ほかになれば、時間の関係もありますので、一旦ここで報告の会を終えたいと思いますが、いかがでしょうか。(拍手)

では、ありがとうございました。では、これで議事の2を終了いたします。本日の報告会に御参加いただきまして誠にありがとうございました。いつもこんなふうに議論しておりますので、また報告の機会がありましたら、ぜひお聞きいただければなと思っております。ありがとうございました。これから退室いただきますけれども、忘れ物などないようにお気をつけください。

次は、議事の3、意見交換ということで、次回報告予定の進捗状況についてということで、議事日程にありますように先ほど委員にトップバッターでやっていただきまして、次回が校内居場所カフェ、オール世田谷おやじの会、総合型地域スポーツ文化クラブということで、では、順番にお願いできますか。

○委員 校内居場所カフェについてなんですけれども、前は校内居場所カフェを世田谷区の中に広げていくといったようなイメージを持って提案を書かせていただいたんですけども、会議を経て、今、私が実際に活動しているところの校長先生を訪問して、お話をお聞きした結果、少し内容を変えまして、私が現在活動している中学校で校内居場所カフェを開催するに向けた計画案ということで、今回は少し修正したものを添付させていただきました。

今ユースキッチンということでやっている中学校の校長先生を訪問いたしまして、校内カフェのお話をしましたところ、留意点に書いてありますようなことを先生から課題としていただきました。一番最初に先生がおっしゃったのは、開催時間についていつをイメージしているのかという御質問をいただきまして、放課後はいかがでしょうか。下校の時間にぶらっと寄ってもらってというようなイメージをしていますというお話をしたところ、現

在、安全管理というんですか。帰宅する子、部活に行く子をきちんと管理しているので、ふわっとした時間というのは持ちづらいということ。じゃ、昼休みはどうですかと申したところ、昼休みは10分か15分くらいしかないので、そこも難しいというような話をいただきました。

そういった中で管理は、学校としては誰が責任を持つのか、そこがはっきりしない活動はなかなか行いにくいというようなお話の中で、地域性という話も出てまいりまして、すごく密に地域と連携とか活動、コミュニケーションを取っているところは比較的そういったこともやりやすいかもしれないけれども、今私が訪問した学校は、比較的地域との関係性はそれほど活発ではないので、まずは今やっている活動を通していろいろな実績を積み上げていくことが好ましいのではないかというお話をいただきました。

コロナの前、2019年から活動を始めているんですが、ちょうど子どもたちが定着してきた頃にコロナ感染症がはやってきたので、活動として少しお休みをしてしていました。その間に来てくれていた子どもたちが卒業してしまったり、先生たちはちょろちょろとお顔を見せてくださったりしていたんですが、そういった関わった先生たちも異動されてしまったり、少しずつ広がっていったものがまたゼロのような状態に戻っているの、ここで新たにまたカフェというような形で始めるよりは、今やっていることを温めながらやっていったほうが、こういうことをするときには、大なり小なり出来事ができたときに、問題が起きたからということで取り扱われるのではなく、課題としてどのようにしていきましょうというような協力的な方向に持っていける可能性が出るので、そういった段階からはどうですかというような御提案をいただきました。

時間に関しても、関係性ができていけば、こういった時間もというような提案をしていただけたので、時間に対して全く可能性がないわけではないんですよということもお話をいただいているので、そういったこととともに、もう一つは子どもたちは本当に利用しますかというお話もありました。そこについては今やっているユースキッチン、小学5年生から中学3年生までに募集をかけたところ、この9月から来てくれたので、その中で子どもたちの声を実際に聞いたりしながら、実際にどうなのか。

うちの地域は比較的ドライだそうなんです。親子関係は結構密だけれども、学校とか地域に対する関わり方は、校長先生目から見るとドライな地域だと思うので、家庭のことを外に、人に話すということとか、緩い、ざっくりとした関わりに対してどのように反応するのか、そんなことで来るのかなというようなお話だったので、カフェ開催を目指

しながら、ここのスケジュールに書いているような順番を丁寧にやっていきたいなと思って、このようにしております。

ちょっと長くなりましたが、現在の状況はそんなところなので、このスケジュールで言うと、校長先生へのヒアリングと活動の参加者や賛同者の発掘というのが今の状況です。何かある組織からというよりは、全くの一からの立ち上げなので、先ほど発表された活動とは全く違うゼロからのところなので、丁寧にやっていくことのほうがいいのではないかと考えています。

○議長 ありがとうございます。皆様から何かありますでしょうか。

安全管理って難しいですね。やっぱり気になりますよね。どうでしょうか。

○委員 今その子がどこにいるのかということを取りわけ先生たちはすごく気にしているのでとおっしゃっていました。

○委員 今おっしゃったように、拙速にやり過ぎると、かえってマイナスが出てくるかなと思います。だから、即カフェをやるのではなくて、長い目で見て、少しずつというのかな。すぐに実現するといったら、かえってマイナス面が出てくると思うので、極端な話ですけれども、仮に誰も来なくてもいいというぐらいな気持ちから始めたほうがいいかなと。例えば一人でも来ればいいのか、その次は2人でもいいとか、そういうふうに段階的にやるんだというふうに持っていったほうが、今までやっていないことをやるわけですから、当然難しいわけです。すぐにできるわけがないと私は思うので、今の発表にあったようにスケジュールはこうなっていますけれども、長い目で見てやられるほうに私も賛成です。

○委員 あと1点、先ほどおっしゃったように校長先生になかなかアポがとれないということで、私も3回ぐらいで通じまして、校長先生との1対1のお話だったんですけれども、帰りがけには気軽にどんどん連絡して、また来てねとおっしゃってくださって、何を地域の人が考えているのかとか、どんな動きがあるのかも知りたいという気持ち、校長先生に興味を持っていただけたということもあるので、よかったし、そしてまた、校長先生から先生方に対する発信もいろいろ理解しているとしやすくなるので、そんなこともおっしゃってくださいました。気軽に来てくださいと言ってくださったことがすごく心に残っています。

○委員 子どもたちが利用するだろうかというところでは、私は絶対利用すると思うので。もちろん最初は1人か、2人かもしれないけれども、続けることで、必要としている子は絶対いると思うので、実現を諦めないでほしいなと感じました。

○議長 子どもぶんか村とは違うとおっしゃっていたけれども、違うからすごくいいと思うんです。ベースとして、子どもぶんか村というのがあって、新しいことを始められた例と、今までの子ども食堂とは違う形で今回始められたというので、その始められたというところでの実践的連携・協働、どんなことが問題になるのか、いろいろなことを教えてくれる活動になっていくのではないかなと思っています。

○副議長 校長先生の生徒の安全管理上、難しいというのはすごい分かります。放課後が安全管理下であることは多分間違いないと思うんですよ。アイデアとして、もしその学校の部活動で茶道部とか、料理研究部とか、ないですか。部活動の指導員として関わるというのはどうですか。多分帰宅部向けの部活動があると思うんです。そういうボランティア部みたいなものとか、ありますか。

○委員 あるところもあるだろうと思うし、例えば体力向上部で朝の時間だけやって帰る子もいるわけですから、そうすればその子たちは帰ってくる形かもしれないんですけれども。

○副議長 もしどこの部活動にも所属していない生徒たちがいて、そういう子どもたちを集めて何かしら部活動としてやって、活動指導員としてサポートしたいんですけれどもみたいな形であれば、オフィシャルになると思うんですよ。そうすると、安全管理下で、いわゆる部活動で、もし何か起こったときも、例の日本スポーツ振興センターの災害共済給付の対象になるとか。部活動に協力します、部活動を立ち上げませんかみたいな。

○委員 法律的なことを言うと、正直もう分かりません。だけれども、もう毎日部活をやっていないと思うんですよ。例えば職員会議がある日はやらないと思うので、そこはチャンスではないかなと思うんですけれども。

○委員 やっぱりコミュニケーションですね。少しずつやりながら、可能性のあるところも少し御提示くださったんですね。ただ、先生も、あまり期待させてもいけないと思われたかもしれないので、徐々に距離を詰めていきながら……。

○副議長 いずれしても、それを提案するにしても、活動実績ではないですけれども、やっぱりそういう関係性がないと。いきなりはなかなか難しいと思うので。

○委員 この間、1回目だったんですけれども、土曜日の午後なので何もない日なんですけど、先生がふらっと見に来てくださいました。ユースキッチンのかawaiiチラシを作ったので興味があったのと、気になるお子さんがどうも参加されているというようなことで、ふらっと見に来てくださったんですね。校内でやると、そういう関わりも持てるのかなと

いうこともあるので、おっしゃってくださったように、急がず、慌てず、少しずつ。一番は11月までにどこまでまとめられるかというのがあるのですけれども、経過報告というような形での発表になってしまうかもしれませんが、まとめさせていただくということでもよろしいでしょうか。

○議長 そのポスターというか、プライヤーというか、いいですね。そういうものを置くと、子どもは気にして、見ていないようで、よく見ていたりするのではないかなと思う。

○委員 私が全部作っているの。スタッフを集めるところから頑張らねばというような感じなんです、それよりも、無理せず、1人の子に自分一人に関わるのでもいいというようにところから始めてもいいのかもしれないので、分かりやすく、丁寧に発信していきたいと思います。

○議長 ありがとうございます。では、11月にそのお話を聞けることを楽しみにしております。

では続いて、お願いできますでしょうか。

○委員 私は今、2つのおやじの会に資料というか、材料をお願いしていて、秋のイベントに向けて、イベントの企画段階からおやじたちがどう関わって、イベントが成り立つかというのを見せてほしいというふうに言っているんですけれども、彼らは、動画を撮ったりとか、そういう編集が得意なおやじなので、多分そのときの様子を動画に撮って編集したものを上げてくれるのではないかなと思っています。

前に話に出た子どもが企画というのもお願いしていて、今回企画の段階からの紹介をするような動画資料の中に、企画段階で子どもたちとの意見交換みたいな形でイベントをやってほしいと言っているの、どういう形で出てくるか、分からないんですけれども、子どもも絡めたイベントの流れを紹介できるかなと思っています。

私は以上です。

○議長 ありがとうございます。今のお話に対して何か御質問等ありますか。

○委員 さっきの話に戻ってしまって恐縮なんですけれども、さっきこの地域はドライな関係で、地域とのつながりがあまりないんだよねという話だったんですけれども、おやじの会をやっていても思うんですけれども、全然ドライではないですよ。ただ、これを巻き込めていないというか、コミュニケーションができていないだけのような気がすごいですね。僕が世田谷に来たときも、いわゆる下町だったりとか、昔からのまちではなく、

僕自身もそうですけれども、新たに移り住んできたおやじたちが周りにいっぱいいたので、商店街があったりとかすると違いますけれども、完全に個々、サラリーマンで、地域とのつながりがないようなお父さんたちが大多数だったので、ドライだろうなと思っていたんですけれども、一回関わると、とことん一生懸命になってくるおやじとかを見ていたり、さっきのNPOだったり、地域で子どもたちと一緒に育てようと思っている人たちがこんなにいるのかみたいな、それでNPOができていたりするではないですか。それを学校が知らないだけという気が非常にしますね。蛇足になるかもしれないですけども。

○議長 学校が知らないだけというか、若い先生たちは知らない人が多いのかなという気もいたします。先生方、異動もあるし、学校に愛着を持って、地域と関わりを持ちたいと思いつつも、できない事情もあり、特に最近の先生方は若いので、そういった意味では、ドライとかの前の段階でよく知らない、先生方自体も変わってきているのかなと思っていて、そのような状況を思うと、何かをきっかけに連携したり、一緒にやる。協働までいく前に、とにかくまず何か一緒にやるという何かが見えてくるといいなと思いつつも伺っていました。ありがとうございました。

では最後、東深沢スポーツ文化クラブ、お願いします。

○委員 スケジュールには書かなかったんですが、この前もちょっとお話ししましたけれども、最初に、校長先生に会って、意図をお話しするところから始めています。その後、一応組織の規程にのっとって話を進めていかなければいけないということで、まず最初に、今日も何人か来ていましたけれども、役員クラスの方に根回しをしまして、それから理事会に正式に話を持っていきました。その結果、ハードルが幾つか出てきました。

1つは、カフェ、食べ物、飲み物を出すということで、食品衛生上の問題が1つ。2つは、最初の目的、地域の方、誰でも気楽に入ってというコミュニケーションの場というふうなコンセプトで来ました。でも、待てよ、今この時期に、地域の誰でもいいという、いわゆるセキュリティの問題で問題にならないかというハードルがもう一つ出てきました。この2つの超えなければいけない課題が出てきて、結局は大きな反対はない。目的というか、ゴールは非常に賛成だ、とてもいい発想であると賛成するのですが、先ほどのお二方の話にもあったように、やっぱり細かいことになるというハードルが出てくるということで、取りあえず校長先生も趣旨は賛成してくれていますので、土曜日の午後を使ってやってもいいですよ、やってくださいということが1つ。ただし、クラブ、部活動の昼食場所とか、いろいろ使うので、ミーティングルームは今のところはスポーツクラ

ブの団体が大体フルで入っている。あと使えるのは、食堂、いわゆるランチルームは使っていていいですよということで了解を得ました。ただ、子どもたち、部活動を終えた後の昼食場所として結構使ったりするので、その状況を見て、毎土曜日というわけにはいかない。その辺のところは調整しながら、土曜日の午後を使ってやってくださいということにはなりました。

食品衛生上の問題とセキュリティーの問題を克服するために、取りあえず最初はスポーツクラブの会員限定でやってみようということで、まずその限定を1つ。それから、中でコーヒーを入れたり、食べ物を出すことはいいんだけど、ちょうど夏だったので、食中毒というような頭がすぐあったと思うので、今すぐには難しいだろうということで、参加者持込みで取りあえずやってみよう。飲み物も、食べ物も、いわゆる自己責任で持ってくる形式でスタートしようということになりました。場所はまだ学校との調整が見つからないので実現はしていませんけれども、できれば10月から、取りあえず月1回か2回で始めてみようということになっています。具体的にいつかというのは、今のところまだ決定しておりません。

そんなわけで、最後の留意点のところにあるんですが、まず学校の教育活動に支障のないこと、つまり使っていないところですね。2番目に、飲食を伴うため、衛生管理に努めること、感染対策に努めること。それから、取りあえず今は会員だけでやるんですが、行く行くは中学生の自発的参加を募集したい。つまり中学生の中でも結構好きなのもいますので、喫茶店のマスターだよなんて言えば食指を動かすのも当然出てくると。そんなことから行く行くは始めたいと。

もう一つは、これは校長先生の肝煎りもあるんですが、不登校生徒。土曜日の午後、ほかの子どもがいなければ来やすいだろうという考えもありますので、来てくれるかどうかは別にして、そういう会場にもなればいいな、行く行くのゴールとしてはそこを進めたいなということで、スポーツクラブのほうではとてもそれはいいことですねという賛成は得られています。ただ、それがいつ実現するかは、これも先ほどの話ではないですけども、長い目で見てもらえればと思っています。

もう一つ、ここには出さなかったんですけども、前に出た部活動との話で、今は行政が音頭を取っているんですけども、朝、始業前の体力向上部。これは特に種目別の部活に参加していない子どもたちが主なんです。体を動かしたいという生徒を集めて、朝の30分かな。8時から8時半かな、7時半だったかな。ちょっとその辺はあれですけども、

学校は指導には関わらない。クラブの方が来て面倒を見ている。内容は子どもたちがやりたいことを尊重してやっているみたいなんですけれども、今4月から始めたのかな。5月からかな、もう約半年たっていますので、行政の了解も要りますけれども、その辺も含めて発表できないことはないという情報は得ています。

そんなところですよ。よろしくお願いします。

○議長 ありがとうございます。今の御報告について何かございますでしょうか。

○委員 なお、言い忘れましたがけれども、今日聞いた情報で、お湯とか、コーヒーとか、ティーバッグの準備ができているという情報が入りました。これをやるかどうかは別にして、将棋とか、囲碁とか、トランプとか、そういう物の準備はでき始めているというふうな情報を聞きました。

○議長 セキュリティーと食品衛生上の課題がまず浮かんできたということですがけれども、それがどのように……。おやじの会でいろいろなイベントをするとき、セキュリティーの問題とかは出てきたりしないんですか。

○委員 あまり聞いたことがないですね。僕は勝手に学校の中にがんがん入っていきますので。そこは、さっきの話ではないですがけれども、顔が知れているというのが大きいですね。不審者に思われることなくというか、ふだんからイベントだったりとか、学校の行事に関わったりとかしているからだと思うんですが。

○委員 最終的には不特定多数をイメージしていますので、その辺から出てくるんだと思います。ふだんの顔パスは十分あり得ることだと思いますけれども。

○議長 いろいろな食べ物を扱ったりされてきたと思うんですがけれども、食品衛生上、気にしているところとかありますか。

○委員 私は介護施設の厨房で働いているので、そういう衛生の知識は人よりはあるんだとは思いますが、人数によって法律も違うので、当てはまるかどうか分からないんですが、露店のときの規約とか、そういうものがありますよね。出店、お祭りでお店を出したりするとき、御飯はまずいとか。御飯はすごく食中毒を起こしやすいとか、そういうポイントがだんだんつかめてくるので、むやみに怖がることもないし、個包装のものをお渡しするのだったら、おやつステーションもそうですけれども、おやつステーションを始めるときも、確かにアレルギーの問題とか、衛生の問題とかは非常にみんなで議論した覚えがあります。やっていくうちにだんだんほぐれてくると思います。

○委員 そうだと思うんですが。

○委員 私も最初は買ってきたもの、それこそ個包装のものでと思っています。行く行くはおみそ汁を出したいなというのがあるんですけども、よく火を通したものを出すとか、そこは気をつけていきたいなと思います。

○委員 外でやるときには、テントを張ったりして、焼きそばをやったり、綿あめをやったりするんですけども、部屋の中でやるとなると、ある程度そういう意見が出てくる。ただ、校長先生はどこもそういう心配をしますよね。

○委員 アレルギーの問題はそうですね。私は中学校でやろうと思っているので、自分のことが大分分かってきている学年なのではと思います。

委員のカフェというか、この取組は学校を中心とした地域の出入り自由な居場所……。

○委員 そういうものを目指しています。ただ、すぐには難しいかと思います。

○委員 そこに子どもも参加したらという……。

○委員 そうです。ゴールはそこですから。

○委員 ランチルームにキッチンはあるんですか。

○委員 あります。キッチンというか、調理室はあるんですけども、一応水と火は使えることにはなっています。

○委員 なるほど。1階ですよ。

○委員 1階です。

○委員 それは恵まれた環境ですね。

○委員 実際子どもたちとの触れ合いはなかなかないものですから、難しいんですけども、こういう対面の大切さというのはつくづく分かるんですね。子どもたちと会って、夏休みの世田谷区民まつりに子ども部会で参加させていただいたり、アドベンチャーin多摩川。そういうときは親も一生懸命になっていますし、子どもたちも一生懸命、すごくいい笑顔。だけれども、やっぱりそこには対話があるんですね。第三者のおやじたち、お母さん、お父さんたちが子どもたちに頑張ったなど。そうすると、すごい笑顔になるんですよ。SNSでも何でもある世の中なんですけども、やっぱりこういうカフェ、おやじの会の皆さんの活動、子どもたちとの対面が一番大切であり、そこから今度は子どもたちが子どもたち同士で会って話して。今は大人と子どもとなっているんですけども、子どもたち同士がそういう場で会って話して、お互いの心情、友達はどういうことを思っているのか。そこからだんだん親友だとか、もっと深い仲になっていくのではないかな。それが薄くなる、我々のときと違って、時代とともにだんだん薄れていってしまっている。ですから、これ

を見て、私は携わっていないんですが、聞いていて、本当に羨ましいな、本当にやっていただきたいな。でも、究極は子どもたち同士が中で話をして、切磋琢磨して、親友をつくっていく、一緒に友達をつくっていくノウハウを中高大でつくってもらえるような人間づくり形成の礎になってもらいたいなとすごく思いました。

ただ、やはり第一歩ですから、急には当然できないと思いますし、長い歴史があり、ある程度の礎や規模が整って入れれば動きやすいし、ぶんか村でもある程度スポーツをやってきた。その中で取り組むというのは、全くないよりは少し進みやすいのではないかと感じるんですが、雑駁になりましたが、以上です。

○副議長 不登校の子どもたちも視野に入れてというのは非常にいいことだと私は思うので、まずは、クラブの会員だけでというところから少しずつ広げていければいいですね。

○委員 最初から大風呂敷を広げると、失敗する可能性もあるから、少しずつ……。

○副議長 様子を見て、課題を改善しながらですね。

○委員 スポーツクラブの方々も経験がないから、暗中模索なんですよ。だから、少しずつ、一歩ずつ取り組んでやりましょうよという、その辺が落としどころかなと思います。

○議長 今まではスポーツクラブとしてやっていくことが挑戦だったようですけれども、今回こういうお話が出ていかがですか。

○委員 不安もありますよね。第一番目に来てくれるかどうかという……。

○委員 最初は2～3人です。

○委員 だから、ゼロでもいいではないか、私一人でも行きますよぐらいの気持ちで……。

○委員 自分の身内を……。

○委員 それでいいのではないかなと思うんですけれども。

○副議長 学校が協力的だからなんでしょうけれども、校長先生から、今日、ランチルームでやっているぞみたいなことを言えばぼろぼろと……。

○委員 それはメリットですね。

○議長 ありがとうございます。大分いい時間になりましたので、本日の会議はこのあたりで閉じたいと思っています。

今後の内容、日程について確認したいと思いますが、事務局、いかがですか。

○事務局 それでは、最後の資料6を御覧いただきたいと思います。

皆さん、御多用のところ、実践的連携・協働活動ということで試行していただいて、本当にありがとうございます。次回、10回目は11月24日（金）を予定しておりますが次回第

10回は残りの3人の委員の皆さんに報告をしていただく予定です。

実際のところ、話し合いは第10回で終了して、残りの11回、12回に関しては今期の検証のまとめということで、活動報告書の検討についてと活動報告書のまとめ（承認）という形で今年度は終了となりますので、実質はもう10回目が最後の検証だったり、意見交換という形になりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○委員 その報告も公開でしょうか。

○事務局 今回10名の方がいらっしゃったんですが、いかがでしょうか。基本的には、委員の関係団体の皆さんに来ていただいて、いろいろな活動のお話を聞くことによって、自分の活動の参考にさせていただきたいという思いで御参加いただいたんですが、そこら辺はどうでしょうか。

○議長 いかがですか。

この会議もそうですが、傍聴はできるにしても、機会がないと来ないでしょうから、そういう意味では来ていただいて、どんな活動をしているのか、聞いていただくのはとてもいいことではないかなと思いますし、後でお願いしようと思っていたのですが、来ていただいた方に感想を聞いていただいて、どうでしたか、またこういう機会があったら来たいですか、あるいは、どのようなやり方だったらもっといいですとか、時間が遅いとか、いろいろあるでしょうけれども、そうした感想を聞いていただいて、もし問題がなければ、私は聞いていただければよいと思っております。

○委員 きょうみたいにいい発表をされると、プレッシャーを感じてしまって。まあ、来たい人もいるなら結構だと思います。

○事務局 公開という形でも、基本的には委員の皆さんの関係というか、所属団体の方に参加していただくという形で考えております。

○議長 ほかの同じような目的を持った活動されている方たちが、どんな活動をしているかを聞くのはいいことではないかなと思います。

○委員 ただ、必ずしも成功例ではなくて、経過報告という形に多分なと思いますので、その辺は御了解いただきたいなと思います。

○事務局 そうですね。ついでながら申し上げれば、実践的連携・協働に向けた活動の検証となりますので、必ずしもうまくいったことだけではなくて、学校と連携・協働するといったときにどんなところにハードルがあるのかとか、今後、持続可能な活動にしていくためにはどういうことが必要なのかとか、何を大切にしなければいけないのかとか、そう

いったことも含めて報告いただけると、最終的にはまとまった形になるのかなと考えております。

あわせて報告ですが、青少年委員公立小学校に1人います。公立中学校も担当していますので、学校とのコミュニケーションがなかなか難しいこともあったり、子どもぶんか村は20年という歴史があるので、信頼関係もあるということで事が進んだということもあつたりしますので、そういった面では、学校と地域をつなぐとか、その情報をまた教育委員会に吸い上げていただけることも含めた青少年委員の存在がありますので、ぜひそういったところも活用していただき、小学校、中学校に行く機会が比較的多いものですから、地区委員会にも青少年委員はいますので、ぜひ活用していただけるといいのかなと思っております。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 もっと前に言うべきだったんですけども、今日、皆さん4つの団体の話を聞いた感想を最後に1ついいですか。4つの団体に共通しているのは、校長先生方がいる中で申し訳ないですけども、学校教育ができない部分、言い方を変えれば、学校教育の隙間を埋める活動をもう既にしているんですね。4つとも共通していると思います。ただ、あとは学校とどう協働、タイアップするか、つながりをつくっていくかが課題なんだろうと思います。世田谷区のメリットとして、学校運営委員会があるということが世田谷区の強みだと思うんです。だから、これをうまく活用していけば、もう少し学校との関係が出てくるのではないかなと思いました。だから、ずうずうしく行かなくても、メンバーなんだから、当然そういう立場にあるわけだから、ぜひ学校運営委員会を活用すべきかなと思いました。それだけ学校運営委員というのは、プライドと責任、力を持っていると世田谷区も言っています。

○委員 自分の小学校には運営委員会の中におやじの会枠がありますね。おやじの会の代表は自動的に運営委員と。

○議長 学校によると思います。

では、今日の定例会はこれで終わりたいと思います。次回は11月24日（金）であります。報告会も兼ねるということで、ぜひ、本日、いらした方の声を聞いていただいて、それを生かして、次回の報告会を考えていただきたいと思います。お待ちしております。

どうもありがとうございました。

午後8時29分閉会